

埼玉営業所 開設

アライアンス発揮拠点に

マルトウ

マルトウ(澤田豊社長、高崎市)は6月1日、埼玉県熊谷市に「埼玉営業所」(齋藤学所長)を開設した。9月1日現在で、齋藤所長のほか、スタッフさん(Dr)5人が所属。大手路線会社の集配代行に取り組みながら、グループのアライアンス(連携)を発揮し、新分野への参入を目指す。



開設したマルトウ埼玉営業所(埼玉県熊谷市)

同社は1977年に設立。2006年にグループ入りした。大手路線会社の集配代行や、食品の路線配送などを行っている。

埼玉営業所は同社としては初の倉庫部門を持つ営業所だ。同社の強みであるフットワークの軽さ、細かい仕事への対応力を継承。群馬県と首都圏を結ぶ中継地として存在感を高め、グループ各社とのアライアンスを存分に発揮した営業所を目指す。

拠点開設に伴い、スタッフさん(Dr)を4人新規採用した。9月1日現在で、スタッフさん計6人、4ト車6台、2ト車1台体制。さらに今年度中に大型車2台、4ト車2台の増車を視野に入れている。



「常念必達」胸に邁進
齋藤所長(30)

「きょうも安全第一でよろしくお願ひします」。30歳の新所長は、にこやかな表情でドライバーさんを送り出す。

「笑顔で働ける職場をつくりたい」。営業所発足に併せて、スタッフさんを新規採用。職場環境には絶えず目を配り、安全面は厳しく指導、時には冗談で和ませる。メリハリを大事に、責任を果たそうと邁進する。

2013年4月、アイ・リンク(現アイ・リンクホールディングス)に新

卒入社。総務部でグループのホームページ運用や新卒採用などを担い、14年、マルトウに転籍した。

マルトウでは、ドライバーとして約1年半働き、コンプライアンス管理、営業、配車、収支管理などを経験。そして6月、新設した埼玉営業所長に抜擢された。

座右の銘は「常念必達」。常に信念を持ち続ければ、目標を達成出来る。中学から大学まで弓道に取り組み、高校時代に出会ったこの言葉を、胸に刻んで歩んできた。

共に働くスタッフさんは、グループの理念に触れるのは初めて。だからこそ、「点呼や現場指導で、より多く会話をし、構想や思い、ビジョンを共有している」という。

「お客様との関係を積み重ねている最中。仕事を頂けることに感謝し、邁進していきたい」と意気込んでいる。

代表取締役社長
澤田 豊



ご挨拶

このたび弊社では、従来サービスの拡充と新たな事業領域への挑戦を図るべく、令和3年6月1日より、埼玉営業所の営業を開始いたしました。これも偏に皆様方のお力添えの賜物と、深く感謝申し上げます。

同営業所開設により、アイ・リンクグループアライアンス&シナジーの創出へと積極的にチャレンジしていきたいと思っております。

また、これを機にスタッフ一同力を合わせ、事業に邁進して参りますので、何卒倍旧のご支援お引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大西運輸サービス グループ加入



固く握手を交わす石島代表(左)と平野社長

9月1日付で、大阪府の「大西運輸サービス株式会社」が、アイ・リンクグループに加入しました。同日、石島久司代表と大西運輸の平野裕一社長が、調印式を実施しました。

同社は1978年創業。大阪府八尾市に本社機能を持つ営業所、同府東大阪市に倉庫を有しております。

グループシナジーの創出へ、みなさまのご協力をよろしくお願ひします。



代表取締役会長：石島 久司

代表取締役社長：平野 裕一

所在地：大阪府八尾市

事業内容：家電品設置サービス / 一般貨物運送取扱業
/ 電気工事全般

年商：5億 従業員数：23名 車両台数：21台

編集委員会が発足しました！！

第100号となる9月号より、編集委員会を発足し、社内報「アイ・リンクだより」を発行していく運びとなりました！ 編集委員が企画・取材・写真撮影・記事作成、デザインまでを担い、経営理念の浸透、グループシナジーの創出を目指し、精進してまいります。

情報提供、取材のご協力、何卒よろしくお願ひ申し上げます！

各事業会社の若手スタッフ

経営理念の浸透

グループシナジーの創出

奇数月発行

情報提供は、下記メンバーへ！！



岩本 泰治 (32)

石島運輸倉庫西日本
福岡流通センター 主任



宮南 康椰 (26)

ギャバンス
北方センター



木村 幸祐 (28)

全京運輸



細田 光輝 (26)

石島運輸倉庫
群馬営業所

オンラインでの編集会議(8月20日)



社内報、どう運用？

社内報で掲載したい

内容など、自由に意見を

交わしました。抜粋し

て掲載します。 (進行: 大澤)

大澤 よろしくお願います。

2年ほど前にも、編集委員会はあったそうですね。編集委をやっていた方はその時の振り返りをお願いします。

朝野 書いていて楽しかったというの覚えています。

岩本 企画の案を出すのに苦しかったです。でも、違う拠点の人たちと話す機会が少なかった当時、編集委で交流ができた点はすごく良かったです。

細田 私も交流を持つことができ、良い経験でした。記事作成も勉強になりました。

大澤 今後、取り上げてみたいなというものは？

高田 これまでのものは編集委としての体制が無かったため、各拠点を細かく取材できず、報告や挨拶を掲載するのみだった。それだと拠点のイメージが湧かない。実際の現

場の様子について、テーマを決めながら掲載していくと、内容が濃くなると思います。

岩本 事故防止のための各拠点の取り組みなど、課題を見つければ、それを紹介していくのも良い。あとはシンプルに他拠点のことを知りたいです。

朝野 以前の編集委で覚えているのが、「スタッフさんが興味がある、楽しいもの」を掲載する。「ネガティブな内容」は無し、という考えだった。

ただ、縛りを付けると、大変なことが増える。継続的に発行するものであるから、出来る限り自分たちが、楽しめる状態であるべき。「楽しみたい」というより、ネタにあふれた状態にしたい。そのためには問題・課題を見つけて提案するようなものも選択肢として必要だと思っています。

大澤 若手でつくる編集委員会なので、若い人たちから見て改善するポイントなどがあれば、工夫して訴えるのも大事だと思っています。「愚痴」とか、「不満」として終わってしまわ

ず、「今を改善する」ものであれば、ポジティブな内容として掲載できると思います。

朝野 それと、各拠点のことを知りたいですね。個人的にはスタッフさん一人一人を知りたい。スタッフさんにはグループの人員構成も知らない人がたくさんいる。グループシナジー(相乗作用)を高めるためには、まずはそこを大きく紹介し、拠点同士の結び付きを強くしていきたい。あと、これは案だが、「間違い探し」とか「塗り絵」の欄を入れると思う。

大澤 ありがとうございます。ニュースや企画を通した理念浸透はもちろん、スタッフさんの結婚・出産、ご家族の活躍など、読んで心温まるものも掲載できれば、真心のこもった社内報になると思います。みなさんと協力しながら、良い社内報を作っていければと思います。本日はありがとうございました。

ざい。ありがとうございます。ニュースや企画を通した理念浸透はもちろん、スタッフさんの結婚・出産、ご家族の活躍など、読んで心温まるものも掲載できれば、真心のこもった社内報になると思います。みなさんと協力しながら、良い社内報を作っていければと思います。本日はありがとうございました。

メンバー紹介
(年齢: 9月1日現在)



大澤 健人 (27)
アイ・リンクホールディングス
経営企画部
平和自動車工業



高田 真也 (26)
アイ・リンクホールディングス
管理部総務課



齋藤 学 (30)
マルトウ
埼玉営業所 所長



朝野 晋吾 (40)
アイ・ロジアドバンス
3PLソリューション事業部